難防除雑草の効率的防除技術の早期確立

1　目　　的

○水稲直播栽培において、水稲除草剤（ｼﾊﾛﾎｯﾌﾟﾌﾞﾁﾙ）に抵抗性を有するノビエの発生が令和5年に確認されたが、県内での発生面積を把握しておらず、抵抗性の検討方法も未確立となっている。そこで、抵抗性ノビエの県内モニタリング調査を実施し、発生情報の早期収集及び発生地域を特定するための抵抗性検定方法を確立し、発生拡大やまん延の防止を図る。

○大豆では、難防除雑草（帰化アサガオ類、アレチウリ等）に対し、多発生を想定した防除技術を確立してきたが、過大な防除を行っている場合もあり、大豆生産現場における雑草発生段階に応じた効率的防除体系を確立し、化学農薬使用量の低減や労働力軽減及びコスト低減を目指す。

2　研究計画・試験方法等

（1）抵抗性ノビエの防除体系技術の確立
・発生状況の確認、抵抗性ノビエの検定方法の検討、効果的防除体系の検討。

（2）大豆難防除雑草の発生段階に応じた防除体系の開発
・埋土種子量調査等による雑草種子量の把握や、雑草発生量の簡易判断手法の検討。
・雑草の発生段階に応じた適切な管理技術の検討及び防除の体系化。

（3）広域モニタリングによる問題雑草の把握と警戒情報の発信
・広域モニタリングを通じた拡大・まん延の危険性が高い難防除雑草の情報発進及び、関係機関・生産者との防除実施体制の構築。

水　稲
抵抗性
ノビエ

抵抗性検定方法の検討

ポット試験
（イメージ）

大豆難防
除雑草

発生段階に応じた
防除技術の検討

埋土種子量調査
（イメージ）

宮城県古川農業試験場
住所：宮城県大崎市古川大崎字富国８８
TEL：0229-26-5100、FAX：0229-26-5102
ＨＰ：https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hk-nousi